

株式会社JIEC

役職者や営業担当者が使用するiPhoneに
IBM MaaS360を導入

iPhoneの利便性とセキュリティーを両立し
社外でもメールやスケジュールを確認することで、
業務効率が向上



お客様情報



株式会社JIEC

●本社所在地

〒160-0023 東京都新宿区西新宿6-24-1
西新宿三井ビル20階
<http://www.jiec.co.jp/>

1985年、株式会社CSK（現SCSK株式会社）と日本アイ・ビー・エム株式会社の合併企業として設立されたシステム・インテグレーター。2001年に東証第2部に上場、現在、SCSKグループの一員として、創業以来の強みである企業情報システムの根幹を支える基盤技術を軸に、金融、航空、旅行、通信などの各分野で大規模システム開発に従事している。24時間365日の稼働が求められるミッションクリティカルな、止められないシステムの開発・運用経験で培った大量トランザクション、大規模オンライン・システムを実現する技術力を生かして、多くの企業と社会基盤のシステムを支えている。

24時間365日の稼働が求められる大規模システムの開発、運用に豊富な経験を持つシステム・インテグレーター、株式会社JIEC（以下、JIEC）は、BCP（事業継続計画）対策の一環として、シンクライアントによるリモート・アクセス環境を整備しました。併せて、モバイル環境から社内システムへの安全な接続による業務効率の向上を図るため、役職者や営業担当者が使う100台あまりのiPhoneにモバイル管理ソリューション、IBM® MaaS360を導入しました。

その結果、移動中などの細切れの時間でも社内システムにアクセスして、最新のメールやスケジュールを確認できるようになり、オフィスにおける仕事の生産性も向上、業務全体の効率が大幅に向上しています。

リモート・アクセス環境改善のため iPhoneから社内システムへの安全な接続を計画

JIECでは、顧客企業に常駐してシステム開発にあたる社員が多く、以前から社員にノートPCを貸与していました。2010年にはマネージャー以上の役職者と営業担当者、プロジェクト・マネージャーなど約100人に配っていた携帯電話をiPhoneに切り替え、電話と緊急連絡時のメール、Webサイト閲覧、アプリ活用を可能としました。

その後、2011年に起きた東日本大震災をきっかけにしてBCPを見直し、社内システムへのリモート・アクセス環境構築に至ります。その経緯について、JIEC 取締役専務執行役員 部門統括を務める服部 峰生氏は「東日本大震災の発生は昼間で、多くの社員は社内にはいましたが、万一、夜中に大地震が起きたら、社員は社内システムにアクセスできず、業務に支障をきたします。それを避けるために、リモート・アクセス環境を構築しました。さらに、社員がPCを紛失した場合のセキュリティー・リスク低減のために、顧客情報などの重要情報は全てサーバー上に保存するシンクライアント化を行うことで社員に貸与していたPC800台を回収、社員はBYOD（個人所有デバイスの業務利用）で個人のPCを使うようにしました」と説明します。

そこで問題になったのが、シンクライアントは高度な独自のセキュリティー対策を施していたこともあり、社内ネットワークに接続するまでに時間がかかり、社内メールやスケジュールをタイムリーに確認できないことでした。

特に航空会社や鉄道・旅行・製造・流通業などさまざまな業種の顧客を担当している産業システム事業部では、顧客のロケーションがJIEC本社から離れている



事例概要

課題

- BCP対策のために構築したリモート・アクセス環境を改善するため、iPhoneでの社内システムへの安全かつスピーディーなアクセスを実現
- モバイル環境整備によるワークスタイル変革

ソリューション

- IBM MaaS360
(2015年の導入当時の製品名は IBM MobileFirst Protect)

期待される効果

- iPhoneを利用して、社外から安全かつスピーディーに社内メールとスケジュールを参照し、業務効率が大幅向上
- 利便性とセキュリティを両立したスマートフォンの業務利用によるワークスタイルの変革

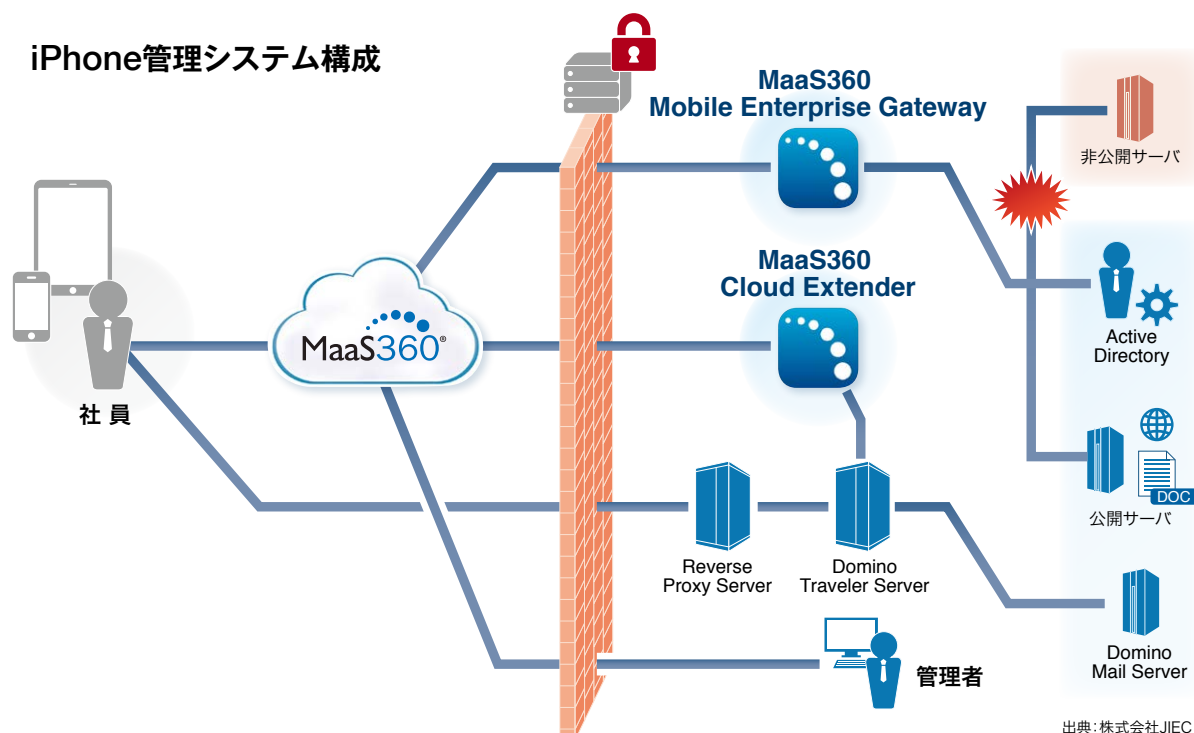
ケースも多く、営業部員や管理職の移動時間のロスやミスコミュニケーションの改善が課題となっていました。そうした背景から、JIECでは自社での本格的なモバイル活用を模索し、モバイル管理ソリューションで利便性とセキュリティを両立させて、安全にiPhoneで社内システムを利用することを計画しました。

トライアルでの高評価が決め手 IBM MaaS360を導入

親会社にあたるSCSK株式会社では、2011年の株式会社CSKと住商情報システム株式会社との合併後、残業をなくし働きやすい労働環境をつくるという経営トップの方針に則って、人事制度の見直しによるワークスタイルの変革に積極的に取り組んでいます。SCSKグループの一員でもあるJIECでも、その方針を受け労働環境の改善のためにさまざまな施策を実施しようとしていますが、そのためには社内になくても業務ができるようにするためのモバイル環境の整備が欠かせません。

JIECでは、BCPだけでなく、業務の効率化とワークスタイルの変革にも役立てようと、モバイル管理ソリューション、IBM MaaS360に着目し、2015年6月から産業システム事業部を中心にトライアルを開始しました。トライアルの様子について、JIEC 産業システム事業部 営業部 部長を務める中矢 孝司氏は「営業担当社員全員と一部の技術系社員の合計30名ほどのiPhoneにIBM MaaS360をインストールして、使用状況に関するアンケートをとりました。その結果、全員が導入すべきだという意見で、特に営業担当者がIBM MaaS360の効果を非常に高く評価しました。営業担当者は社外でもメールやスケジュールを確認する

iPhone管理システム構成



“スマートフォンで社外から簡単に社内システムにアクセスして、経費申請や勤怠報告などの作業ができるようになれば、特にお客様オフィスに常駐する社員の負担を減らすことができます”



株式会社JIEC
取締役専務執行役員
部門統括
服部 峰生氏

“社内システムへのアクセス頻度が増え、移動中にスケジュールやメールの確認が簡単に行えることから、会社に戻るまでの間に仕事の進め方を考えたり、スケジュールを調整したりできるので、会社に着くと、すぐに仕事に取りかけられるようになりました”



株式会社JIEC
産業システム事業部
営業部 部長
中矢 孝司氏

必要がありますが、シンクライアントでは社内ネットワークに入るのに時間がかかるために、つい面倒になることもありました。IBM MaaS360をインストールしたiPhoneでは、スピーディーかつ安全にメールやスケジュールを見ることができるようになりました。10分、20分後にスケジュールが変わったり、新しい予定が入っても、すぐに確認できます。それで業務の段取り、進行がスムーズになり、業務効率が上がることがわかりました」と振り返ります。

トライアルの高評価を受けて、JIECは、IBM MaaS360の導入を決定し、2015年11月にマネージャー以上の役職者や営業担当者などが使っている100台あまりのiPhoneでIBM MaaS360の利用を開始しました。

IBM MaaS360をインストールすることによって、iPhoneの中で業務用の領域と個人用の領域が分離され、デバイスの管理に加えて、業務用アプリケーションや顧客に関する情報も安全に管理することができます。一方で個人用の領域では社員は今までどおり、アプリを自由に使うことができます。

IBM MaaS360導入にあたって、JIECでは問い合わせ窓口を作り、サポート態勢を整えましたが、結果的に問い合わせはわずか1件で、特別な教育やサポートなしでもユーザーが問題なく使い始められるというIBM MaaS360の利点を自ら体験することができました。

社外でメールとスケジュールを確認し、 帰社後の仕事の進め方が大幅に効率化

IBM MaaS360の導入によって、JIECでは日常業務の効率化が進むなどさまざまな効果を上げることに成功しています。

iPhoneでの社内システムの利用時間は、トライアル時の調査では平日約70分、休日が30分でした。87%の社員がシンクライアントだけの時に比べて、社内システムへのアクセス頻度が増えたと回答し、75%の社員が業務効率が向上したと回答しており、1日に換算すると、約40分の業務時間に相当する業務効率化が実現しました。2015年11月の全面導入後は、社内システムへのアクセス頻度はさらに増え、業務効率も一層向上しています。中矢氏は「特に営業担当者の場合は外に出ている時間が長く、移動時間をどう有効に使うかが業務の効率化と労働時間短縮のカギです。最近では、iPhoneを使って、メールの簡単な返信や社内向けの返信は移動中に行い、お客様向けのきちんとしたメールだけを社内に戻って書くようになってきました。また、社内システムへのアクセス頻度が増え、移動中にスケジュールやメールの確認が簡単に行えることから、会社に戻るまでの間に仕事の進め方を考えたり、スケジュールを調整したりできるので、会社に着くと、すぐに仕事に取りかけられるようになりました」と評価した上で、「さらにiPhoneの利用を推進することで、移動時間の有効利用や社外での業務環境を整え、仕事の効率化を図り、顧客満足度の向上に努めたいと考えています」と話します。

また、営業以外の役職者の活用の仕方について、服部氏は「私は普段iPadを持って外出していますが、稟議の承認依頼が入っているかどうかを事前にiPhoneのメールで確認します。承認依頼が入っていれば、iPadを立ち上げ、社内ネットワークに入ってすぐに処理します。入っていないければ、iPadは立ちあ



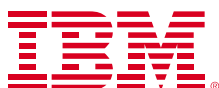
左から中矢氏、服部氏

げません。その結果、メールを確認するだけで急の用件にも確実に対応ができるようになり、煩わしさが大分少なくなったと実感しています」と話します。

モバイル利用前提の次期基幹システムへの移行を計画 BCP高度化とワーク・ライフ・バランス実現を目指す

現在、JIECは会計や人事、営業管理などの基幹システムを刷新し、次期システムに移行する計画に着手しています。新システムではモバイル利用を前提にしたアプリケーションを想定しており、IBM MaaS360を搭載したスマートフォンを全社員が使えるようにする予定です。服部氏は「現場の社員はほとんどがお客様のオフィスに常駐していて、お客様の会社のネットワークを使っています。PCを持ち込めないオフィスも多く、社員は経費申請や勤怠報告などの作業を自宅で行わざるをえません。新システム導入で、スマートフォンで社外から簡単に社内システムにアクセスして、経費申請や勤怠報告などの作業ができるようになれば、特にお客様のオフィスに常駐する社員の負担を減らすことができます」と期待しています。

JIECでは、基幹システムをモバイル利用を前提に刷新していく中で、BCPのさらなる高度化と共に、在宅勤務、週3日勤務や1日5時間勤務の正社員など働き方の多様化を支える基盤を整備してワーク・ライフ・バランスを実現していく考えです。



日本アイ・ビー・エム株式会社

〒103-8510 東京都中央区日本橋箱崎町19番21号

© Copyright IBM Japan, Ltd. 2016

All Rights Reserved

03-16 Printed in Japan

IBM、IBMロゴ、ibm.comおよびIBM MobileFirstは、世界の多くの国で登録されたInternational Business Machines Corporationの商標です。他の製品名およびサービス名等は、それぞれIBMまたは各社の商標である場合があります。現時点でのIBMの商標リストについては、www.ibm.com/legal/copytrade.shtmlをご覧ください。

他の会社名、製品名およびサービス名等はそれぞれ各社の商標です。

このカタログに掲載されている情報は2016年3月のものです。事前の予告なしに変更する場合があります。

本事例中に記載の肩書きや数値、固有名詞等は初掲載当時のものであり、閲覧される時点では変更されている可能性があることをご了承ください。

事例は特定のお客様での事例であり、すべてのお客様について同様の効果を実現することが可能なわけではありません。

製品、サービスなどの詳細については、弊社もしくはIBMビジネスパートナーの営業担当員にご相談いただくか、以下のWebサイトをご覧ください。

ibm.com/security/jp
